



同窓会だより

発行 愛知工業大学名電高等学校同窓会

〒464-8540 名古屋市千種区若水 3-2-12
TEL (052) 721-0311 (代表)

題字は後藤淳・名古屋電気学園理事長

同窓会新会長に葛谷捷臣氏が就任しました。昨年五月の役員総会で満場一致で推挙されたものです。「心のよりどころとなるような同窓会を目指したい」という葛谷新会長がご挨拶申し上げます。

春光天地に満ちて快い季節になってきました。会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会の活動にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

愛知工業大学名電高等

心のよりどころに

お互いの絆をさらに深め、母校の伝統を守り次の世代へ橋渡しをし、社会の様々な分野で活躍されている方々、その後に続く後輩の方々が、親しく語り合え互いに切磋琢磨できる家庭的な雰囲気での心のよりどころとなる

葛谷捷臣・新会長

学校は一九二二年（大正元年）に創設され、本年三月時点の卒業生は五万八千名を数えるまでになりました。校訓にあります「誠実」「勤勉」を繋ぐ大きな使命を賜りましたことは伝統と歴史を思いますと、その大きな責務に身の引きしまる思いでございます。

青春時代、文武両道に勤しまれた会員の皆様、

ような同窓会にどの思いを胸に、微力ではございますが、全力投球で努めさせて頂きたいと存じます。諸先生、諸先輩のご協力とご指導をよろしくお願い申し上げます。

現在は経済情勢、少子化問題等により学園を取り巻く環境は大変厳しい状況にあると思えます。解決しなければならぬ問題が山積しており、混

沌とした状態の中、同窓会として、同窓生の立場に立ち、役割を果たすことができれば、愛知工業大学名電高等学校の発展に少しでも寄与できると考えております。

同窓会の本来の目的である会員相互の交流と親睦を図り創設以来の長きにわたり諸先輩方がご努力され築きあげられました、同窓会の組織力を前途ある若い同窓生の為に集約できれば新しい希望



葛谷捷臣会長

の道が開け、同窓会活動の活性化へつながると確信しております。

今日までご尽力いただきました歴史的同窓会会長に感謝の意を表しますとともに、母校愛知工業大学名電高等学校の発展ならびに同窓会の益々の繁栄と会員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

「若い世代への期待」

後藤淳名古屋電気学園理事長（同窓会名誉会長）は昨年十一月に開かれた役員とクラス幹事の懇談会に出席し、若い世代、若い卒業生の頑張りに期待の言葉を述べました。



後藤淳理事長

今日は若い人がたくさん見えており、非常にうれしい。最近、同窓会が活発になり、若い人の参加が広がっている。私は母校の同窓会に関わったことがあるが、声をかけても集まるのは高齢者ばかりで、この先どうしようかと悩むことが多い。学校に元気があるか、どうという評価か、学校の先生、生徒は当然だけど若い卒業生が社会で頑張っていることが一番大きな力になる。若い人の今後の活躍を期待したい。

黄河の国、聴衆魅了

座談会「吹奏楽部訪中を振り返る」

愛工大名電高校吹奏楽部は三十九年前の昭和五十一年（一九七六年）三月、中国を訪問し日中友好の演奏会を開きました。故後藤鉀二先生が尽力したピンポン外交以来、日中友好をリードした本学園ですが、中華人民共和国建国後初めてという音楽使節の訪中は当時、大きな注目を集めました。温故知新。創立百周年を経て学園の新たな世紀に入った今、次の世代に伝えたいことがあります。団長を務めた後藤淳理事長と演奏旅行に参加した生徒たちが昨年十一月十七日、高校・応接室で座談会を開き、記憶を辿りました。（司会は長尾楯夫・同窓会広報委員長）

「黄河奔流 桜花爛漫」。当時の人民日報は熱烈な歓迎を受けた吹奏楽部の演奏旅行をこんな見出しで報じ、賞賛しました。古い新聞やアルバムを前に後藤理事長が懐かしそうに語り始めました。



団長を務めた後藤淳理事長

代でした。このころは卓球、野球、女子のソフトボールなどが中国へ行っているし、大学の先生たちとは精華大などへも見学に行き交流がありました。日本は戦後の混乱から立ち直り、いろいろな物も知恵もあつたが、中国は



司会の長尾楯夫
広報委員長

39年前文革の時代

まだ何も無い時代。何かしてあげたいという気持ちもありました。そういう中での吹奏楽部の訪中でした。中国の国民は自分たちの伝統を大事にしながら音楽をやっていました。外からは見ることができない中国の姿を直接見てきて、何かの勉強にはなったのではないか。今頑張っ

座談会出席者 後藤淳理事長（団長、当時校長）、菅井善章さん（秘書、当時教諭）、富田みゆきさん（秘書、当時事務職員）、永井広明さん（打楽器、当時3年）、早川達雄さん（ホルン、当時1年）、渡邊喜美子さん（バズーン、当時1年）、司会Ⅱ長尾楯夫・同窓会広報委員長（昭和38年卒）、同席Ⅱ北野芳憲・同窓会副会長（昭和34年卒）、石川聡・同窓会事務局長（現教諭）



打楽器担当の永井広明さん

ている吹奏楽部の原点ともいえます」
司会 私も満州で生まれ引き揚げた経験がありますが、中国へ行くにあたって心構えは菅井さん「私たちは中国のことを全く知りませんでしたので生徒も私たちも勉強会を開くなど、勉強してから向かいました。日本と全く違っていい刺激を受けました」

永井さん「中国の考え方もものすごく勉強しました。交流会で歌えるように中国語の童謡『天安門』をみんなで練習して唄えるようにしました。中国の曲も吹奏楽用に編曲したのを練習しました」
渡邊さん「先生や先輩たちのお話を聞いて大変な努力があつて中国訪問が実現したのだと思います。今は、すごいことをさせ

て頂いたという気持ちだけ」
永井さん「ティンパニーなど大型の楽器は、学校の大工さんにも手伝ってもらって板で専用ケースを手づくりし、運びました。大変な作業でした。卒業式が終わっていたので既に就職して、泣く泣くあきらめた生徒もいました」
司会 指揮の故松井郁雄先生は大変な努力をされましたね

松井先生が全編曲



バズーン担当の渡邊喜美子さん

早川さん「理事長のお話にもありましたが、文化大革命の後だったということ。松井先生が曲をアレンジする時にジャズのコードはだめで、メロディは一緒だがコードを変えていた。先生が曲を全部、手直しされたことを子供ながらすごいと感じました」
永井さん「世界卓球の時、中国国歌は音源ぐらいしかなかく楽譜がまだ日本になかった時代、松井先生が楽譜におこして表彰式などで国歌を演奏し、中国の方が感激されて、この招待につながったという話も聞いています」

桜の国、の音楽使節



後藤淳理事長（右端）を囲み訪中メンバーが思い出を語り合った座談会

曲ばかりですよね」
永井さん「村の鍛冶屋を打楽器でたたくと労働者の曲というところで拍手喝采、喜ばれました」
司会 今では中国にみなさん行くようになりましたが初めて行かれて驚かれたことは
菅井さん「高校生としてはものすごい待遇、ホテルも一流でした」

最上級のもてなし



秘書として随行した菅井善章さん

渡邊さん「このお話があつて、部室を探したのですが中国曲の原譜は残念ながら見つかりませんでした。先生が原曲を聴いて楽譜を書き下ろしたことは、私たちには一番記憶に残っています」
菅井さん「プログラムに名電高校編曲と書いてあるのがそうですね。日本の民謡なども演奏して大好評を得た。本当に大

永井さん「北京も上海も三ツ星ホテルで、まさか高校生が泊まるとは日本の領事館も思っていました」
富田さん「食事もすごかった。北京でも上海でもパーティーやレセプションがあり、北京ダック

日中友好演奏旅行 当時の名古屋電気工業高校吹奏楽部が中国人民対外友好協会の招きで訪中、三月五日から十六日まで北京、上海の両都市で計八回の演奏会を開き、中国の聴衆を魅了しました。きっかけは二年前の昭和四十九年に中国中央楽団が名古屋公演をした際に松井教諭が楽屋を訪問、音楽交流が始まり日中文化交流協会の橋渡しで実現しました。演奏会では、ピアノ協奏曲「黄河」など中国の大作も披露し大きな評価を受けました。メンバーは後藤淳校長を団長に役員十人、生徒五十人でした。



热烈欢迎日本名古屋电气工业高等学校吹奏乐团访华演出

次世代に伝えておきたいこと

クの店へ連れて行ってもらったのは印象的でした。奥の方でアヒルの声がしていました。すごいところなんだと後になって分かった」
司会 中国の人たちの評判は
菅井さん「演奏会ほどの回も満席で大好評でした。結構高価な入場料を取っていたみたいです。希望者が多くて公演回数を増やし、練習も途中から公開になった」



琴を弾いた富田みゆきさん

司会 琴を持ち込みましたか
理事長「日本の民謡をやるといふので富田さんが弾いてくださることにした」
富田さん「演奏したのは『さくらさくら』一曲でした。私は吹奏楽部の時は管楽器で、琴を習い始めたばかりでしたがなんとか音合わせをして頑張って演奏しました」
司会 現地の学生との交流も行われたようですが
富田さん「中国雑技団の養成学校も見に行きました。田舎へ行つた時には要望されて急ぎよドリ



ホルン担当の早川達雄さん

ルを小屋の前で披露しました。楽器がなく口でやりました。農村の中学校でも授業を見学しましたが、交流した中学生が演奏会に来ていました。風が強く寒かったので綿入れを着ていましたね」
司会 心に残ったことは
早川さん「大人になつての感想ですが、三十年で中国はダイナミックに変わってしまつた。僕らの見た原点は人民服で自転車の洪水の町。社会主義のまま、この先どう進んでいくのかと思う。高校生の時はそんなことまったく考えなかつたけれど」
理事長「中国へは何度も行つたが、あれから大きく変わり大國になつた。難しい面もあるが、隣の国だから仲良くしなければいけない。教育の発展に協力しよう」と東南大学の前身の南京工学院と一九八〇年に交流が始まつた。日本の高校生が訪中した。こうして改めて話を聞くと本当にいい経験でした」



平成 26 年役員総会開催 葛谷新会長を選出

新しい会長に選出された葛谷氏は70歳。昭和三十八年三月に名古屋電気工業高等学校を卒業。同窓会では学園創立百周年実行委員長、副会長などを務めました。平成十二年〜十五年、愛知工業大学後援会長も務めました。任期は二年。加藤訓前会長は理事・アドバイザーとして新体制を支えます。

一方、平成二十六年役員総会は昨年五月二十三日、名古屋市内のホテルで開かれ、四十四人が出席しました。葛谷新会長を選出したほか、新理事に渡邊喜美子、宮島仁、宮脇智弘の三氏を迎えました。渡邊さん、宮脇さんは高校PTA会長も務めた経験の持ち主です。

普通科で女子の人気が高まり、比率が27%台に高まるなど女性会員も増え、初の女性理事の渡邊さんへの期待も大きいようです。また副会長を務めた渡辺静夫、池尾勇夫、山下将、奥村衛の四氏が退任し、顧問に就任しました。

久保芳孝校長から学校報告もあった役員総会

総会では、一昨年亡くなった野牧一雄元名誉理事に黙祷を捧げ、平成二十六年度事業計画や予算案などを了承しました。

初の女性理事も誕生 新理事3氏が抱負

渡邊喜美子さん



(昭53年卒)

女性の意見取り入れたい

ら、若いパートナーある同窓生とも交流を持ち、同窓会会員の皆様に関心を持って頂けるような活動に参加でき大変光栄に存じます。

学園創立百周年の年にはPTA会長という大役を仰せつかりました。愛工大名電高等学校の先生方並びに諸先輩方のご指導を受けながら実感させていただきました。

女性初の役員ということなので、女性会員の皆様方のご意見も数多く取り入れた活動が目標でございます。皆様方のお力添えよろしくお願いいたします。また私自身が所属した吹奏楽部で娘、息子も活動していました。母子ともどもよろしくお願いたします。

宮島 仁さん



(昭61年卒)

母校に恩返しが出来れば

新しく同窓会理事を仰せつかりました。愛工大名電高等学校の先生方並びに諸先輩方のご指導を受けながら実感させていただきました。

PTA会長という大役を仰せつかり、百年の重み、多くの方々の支えというものを実感させていただきました。

「休むな、遅刻するな、早退するな」と先生方から毎日のように指導された言葉は今も忘れません。何の取り柄もない私が何とか一人前の社会人として生活できるのもこの言葉を実践したからに他なりません。

先生方にご迷惑をおかけした私も、結婚して子供を二人授かりました。長女は平成二十四年に名電高校に入学し、野球部の主務としてお世話になりました。お陰様で今春卒業しました。娘も充実した高校生活を過ごせたことでしょうか。

親子で感謝、感謝。

宮脇 智弘さん



(昭63年卒)

親子二代で盛り上げたい

野球部の大先輩の加藤訓さんに声をかけて頂いたのがきっかけで、同窓会役員として母校に恩返しが出来た副会長を務めた渡辺静夫、池尾勇夫、山下将、奥村衛の四氏が退任し、顧問に就任しました。

IT系企業に入社し現在に至っております。卒業後二十数年間名電高との関わりは全くありませんでしたが、長男の名電高校入学を機に関係が再構築されました。

いう大役まで務めさせていただきます。今回、同窓会の役員ということで、今までとは違った目線で学校との関係を継続することができ少しでもお役に立てればと考えております。

長男もクラス幹事を委嘱され、微力ながら親子二代で同窓会を盛り上げていきたいと思っております。

今年度から同窓会役員の一員として参加させていたたくこととなりました。

昭和六十三年に卒業後、

現役であった恩師の強い推薦で、PTAの役員・副会長、そして昨年は会長と

発行枚数多い英文証明書 高校では卒業生のために卒業証明書や成績証明書を発行していますが、久保芳孝校長によると英文証明書の発行数が他校に比べ「ものすごく多い」といいます。久保校長は校長として名電は4校目ですが、英文の場合、サインする必要があるためこうした現象に気付いたと言いま

す。発行数は昨年1年間で68枚。英文証明書は海外で仕事をするなどビザの取得が必要となっており。久保校長は「名電高校の場合、卒業生はエンジニアとして海外に出かける機会が多い。国内だけでなく国外にも活躍の場を求めている証しではないか。そういう姿は頼もしい」と話しています。

役員と若手クラス幹事が懇談

同窓会役員と若手クラス幹事との懇談会が昨年十一月二十九日、名古屋駅前のホテルで開かれ、会食しながら世代間の交流を深めました。一昨年初めて高校校舎内で開きましたが、出席者に好評だったため、昨年は土曜夜に設定しました。

出席したのは北野芳憲副会長ら役員と平成十八年から昨年に卒業の幹事の合わせて六十一人。来賓の後藤淳名古屋電気学園理事長の米寿を祝った後、久保芳孝校長らの挨拶などにあり、幹事たちも順番に登壇して近況を報告し盛り上がりました。



同窓会役員と若手が交流を深めた懇談会

同窓会から激励とお祝い

同窓会は二十六年度、以下のように高校のクラブ活動に激励やお祝いをしました。

- 【全国大会出場クラブ激励会】(七月十九日) 自転車競技部、陸上競技部(短距離)、フェンシング部、バレーボール部、相撲部、ボウリング部、卓球部、ウエイトリフティング部、将棋部(九月十九日) 吹奏楽部、チアリーディング部、水泳競技部(十二月十二日) バレーボール部、ボウリング部
- 【相撲部にお祝い】(十月十七日)
- 【吹奏楽部にお祝いと激励】(十一月十四日) 全日本吹奏楽コンクール「金賞」、全日本マーチングコンテスト

トに出場

【将棋部に激励】(十一月二十一日) 第二十三回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に出場

【センター試験・受験者への激励】(十二月十六日) 二十七年一月十七日、十八日のセンター試験受験者への激励

【吹奏楽部にお祝い】(二月二十日) 一月十八日に行われた定期演奏会も今回で五十回。一九七三年より全国大会出場常連校となり、現在まで伝統を引き継いでいます。また、年間七十回にもおよぶ演奏活動には、刑務所や盲学校への慰問演奏など大活躍をされている吹奏楽部へ激励も込めてお祝いを致しました。

× × 高校クラブ活動の主な活

躍は次の通りです。

相撲部の中嶋亮介君(三年)は相撲の世界ジュニア選手権(昨年八月・台湾)に出場、団体戦、個人戦ともに優勝しました。団体戦は日本チームの大将として臨みました。

卓球部はインターハイで準優勝しました。十九年ぶりの優勝を目指しましたが、決勝で宿敵・青森山田(青森県)に及びませんでした。

陸上競技部(短距離)の近藤晃君(三年)はインターハイ男子百斤決勝で三位。吹奏楽部は全日本吹奏楽コンクールで三年ぶり、十六回目の金賞でした。

吹奏楽部へ大太鼓寄贈

吹奏楽部に対し、元顧問の故松井郁雄先生の妻初江さんから大太鼓(ドイツ・レフィーマ社製)が寄贈され、定期演奏会の席上、久保芳孝校長から報告されました。



寄贈された大太鼓

工藤新監督にエール 野球部同期生ら

昭和五十七年卒業の野球部員の有志が毎年末に同期忘年会を開いています。メンバーには今季から福岡ソフトバンクホークスの監督に就任した工藤公康さんも含まれ、時折参加しています。

昨年末も名古屋市内で開催されました。工藤さんは出席できませんでした。松澤和史さんははじめ、浅井澄人さん、小野浩司さん、中井宣行さん、中島徹弥さん、吉岡孝さんの六人が出席、旧交を温めました。

松澤さんは工藤新監督に対し「ソフトバンクは昨年日本一になったのでプレッシャーはあると思うが、指導者を務めるのは初めてなので、高校時代からの持ち前の明るさで頑張ってほしい」とエールを贈っていました。

JAXAに就職 宇宙への夢第一歩

— 富田悠貴さん

名電高校卒業から四年以上が経ちました。私は名古屋大学工学部の航空宇宙工学コースを修了後、茨城県つくば市の宇宙航空研究開発機構（JAXA）で国際宇宙ステーションに物資を運ぶ日本の宇宙船プロジェクトに携わっております。幼いころから宇宙を目指す



種子島にて富田悠貴さん

そうと決めていた私ですが、自信を与えてくれたのは名電高校でした。在学中、スポーツではスキー部でクロスカントリー競技に励み新潟国体に出場、また課外活動では南京の高校生との国際交流に参加するなど、新しいことに挑戦した貴重な活動経験が自分を後押ししてくれました。

大学でも活動の幅を広げ続けることができたため、結果的に自分の夢のスター

ト地点に立つことができま

した。
名電高校は進化を続けており、勉強、部活、国際活動に妥協の余地を与えません。それがきっかけで理系、文系の枠に囚われない今の宇宙開発×国際協力という理想の舞台を見つけられたと思っております。

今後名電高校の多分野を跨いだ新しい価値の発見への後押し、とても期待しています。（平成22年卒）

技術職として道一筋

一宮市役所を定年

— 荒川登さん

私は、名古屋電気高等学校電気科を昭和三十五年に卒業後、一宮市役所の技術職として公共施設の建設現場監督ならびに建築設備の保守管理に従事し、定年まで大過なく勤めさせて頂きました。私の学生時代はひたすら勉強でした。在学中にできるだけの国家資格を取得しようという問題集を常に



荒川登さん

手元に、寸暇を惜しみ、問題と向き合っておりました。そのせいか実習に大変興味を持って楽しく取り組みることができ、よく理解できました。

卒業後も努力し電気工事士、高圧電気工事士、第二種電気主任技術者、一級ボイラー技士、第二種冷凍機械責任者、危険物取扱者等の資格を取得させていただき一宮市役所在職中には資格を活かして一宮市役所庁舎の電気主任技術者、ボイラー技士、一宮市競輪場の電気主任技術者として、電気設備の保守管理、建物設備の運転保守管理に携わることができました。

今改めて学生時代から今日を振り返りますと「仰げば尊し我が師の恩」の大きさが実感されます。学園で素晴らしい先生方とご縁ができて、導いていただいたお蔭で私の人生があると感謝の気持ちでいっぱいです。多くの同窓生の方々がそれぞれの立場で活躍されていることを思いますと、大変心強く、誇りを感じます。いつまでも恩師の方々、同窓生の皆様との絆を大切にしたいと思えます。

ウエイトリフティング

ウエイトリフティング部 一九四九年の創部から今年で六十六年を迎えます。週に一回程度、前監督の高橋力先生にご指導頂きながら、選手も日々練習に励み、全国大会出場や入賞、更なる記録向上など部員それぞれ



れが目標を持って頑張っています。スナッチとクリーン&ジャークの2種目ある競技で選手の得手不得手がありますが、極力苦手意識を持たせないように努めています。数は少ないですが、ここ数年は女子選手の入賞が続き、全国大会出場や入賞を果たしてきました。なんとかその火を消さないように今は女子部員の確保に力を注いでいます。（出村享市教諭）

英語研究部 平成十七年度に部活動として発足しました。このクラブを作った時代の英語の授業は、教師は訳読中心主義の指導方法をとっていました。しかし、これからの時代は、英語を聴ける・話せる能力が不可欠であると考え、「コミュニケーションの英語」に精通する生徒を育てようという趣旨です。

活動はリスニングとスピーキングが中心。二十人の部員が月に一回、アメリカ人のネイティブの英語の先生を招いて指導を受けて、実際のビジネスシーンで使える英語を楽しく学んでいます。写真はカナダ人を招いて、スピーキングの練習をした時のもの。英検などには多数合格しています。（福田博教諭）



やあ！お元気ですか

同窓会の会員は本年3月の卒業生を含めて約5万8000人に上ります。様々な分野で活躍している卒業生4人から近況を寄せて頂きました。



壱番屋の車と関谷さん

学生から社会人となり、自分に甘く仕事を二十二歳まで五回転職しました。転職を繰り返す度に自信も無くなり、何をしたらいいのか解らない状態だったのを覚えています。貧乏暮らしでしたので欲求として、お金持ちになりたい、美味しいものや、住むところも、とにかく豊かになりたい。それは揺るぎない目標だったと思います。性格は、人に好かれやす

壱番屋オーナー 三重で5店舗運営

— 関谷幸伸さん

く仕事を通じいろいろな方に出会いそんなきつかけで壱番屋の加盟店オーナーに誘われその壱番屋で独立を果たし従業員にも恵まれ、現在三重県四日市と鈴鹿で五店舗運営しています。

成功とは、価値ある目標を前もって設定し段階を追って実現すること。人はその人に魅力がなければ付いては来ません。自分の魅力と生涯やり続けることを今も肝に命じ取り組んでいます。(昭和53年卒)

広告のデザイン

— 藤田和人さん

今回、手記の依頼を受け、いったい卒業から何年経ったのだろうと振り返ってみたら、早いもので三十年の歳月が過ぎていたことに驚きを隠せませんでした。私の高校三年間は卓球部での思い出がほとんど、その卓球部での生活と経験で自身の基礎部分が形成されたと感じております。当時は、現代では考えられない超体育会系の厳しい環境での生活でしたが、あの経験が無ければ今の自分は存在しません。どんなに苦し

いことがあっても乗り越えられるのは、名電高卓球部で過ごした三年間があったからなのです。現在は、名古屋の老舗デザイン事務所「株式会社アトリエシア」(http://www.atliersia.co.jp)の常務取締役として、東京オフィスと名古屋本社を往来し、広告デザインのアートディレクターとして活動しております。ちなみに現在のアトリエシア社長の兄(藤田澄人)も名電高卓球部のOBです。その他に理美容クロスと業務用エプロンメーカー「株式会社ワコウ」(http://www.wako-clothing.jp)の執行役員にもなり、ブランドコミュニケーションディレクターとしての活動も行なっています。

近年での母校との繋がりは、名電高と附属中学の卓球部旗を創作し寄贈いたしました。(昭和61年卒)



アートディレクター、藤田さん

高校PTAから

同窓会会員の皆様におかれましては、益々のご清福にて、ご活躍のこととお慶び申し上げます。平素はPTA活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。今年度、PTA会長を務めさせていただきます。よろしくお願いします。

PTA会長は四年前、長男がお世話になった時

子どもたちにより良い環境を

星野孝一PTA会長



星野孝一会長

に縁あつて務めさせて頂き、今回次男もお世話になり二度目の大役で光栄に思っております。

長男の入学式の時に、数十年ぶりに母校の現在の校舎を見て、とても近代的で綺麗な校舎にビックリするとともに、時代の流れと父として母校を

見ていることに不思議な感じでした。規模も設備も、私が在籍していた時とは雲泥の差です。現在の校舎は、当時を思い出させる面影は残っていませんが、建学の精神のもと歴史と伝統は脈々と受け継がれているようです。私自身同窓会理事として二年前に学園創立百周年実行委員を務めさせて頂き、そのことを実感しました。

このような歴史と伝統のある学校のPTA会長を務めることに重責を感じておりますが、先生方とPTA役員の皆様ならびにPTA会員の方々と協力して、子供たちがより良い学校生活を送れるような環境づくりを目指して相互理解のもと、一年間PTA活動に取り組んでまいりますので、さらなるご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

同窓会の皆様には、葛谷会長様をはじめ、日ごろから本校の教育活動にご理解・ご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

愛知工業大学名電高等学校及び愛知工業大学附属中学校は、学園、同窓会、PTA等様々な方面からのご支援をいただきながら着実に教育実践を積み重ねております。

本年度は名電高等学校に六百五十九人、附属中学校に百十五人の入学生を迎えてスタートしました。ともに本校に対する外部からの高い評価を物語る好調な募集状況でありました。とりわけ、専門学科については志願者の増が顕著で、クラス増をしなければなりませんでした。これも、一重に学校のサポーターである同窓会をはじめとする皆様方からのご支援の賜物であります。

この紙面をお借りして平成二十六年度の教育活動の成果の一端をご紹介いたします。進路指導においては先生方の献身的な指導と真摯に学習に打ち込む生徒たちの努力により、愛知工業

専門学科、顕著な志願者増



久保芳孝校長

～久保芳孝校長の学校報告～

大学に二百三十五人(平成二十七年一月十六日現在)の合格者を出すことができました。その他、慶応、同志社、立命館などの有名私立大や、信州、新潟などの国立立大学にも数多くの合格者を出しております。この『同窓会だより』が皆さまのお手元に届くころには、三月中旬・下旬発表の国立立大学合格結果もすべて明らかになっており、さらに多くの生徒が栄冠を手に入れていることと思います。

専門学科においては、ITパスポート試験に三名、情報技術検定一級に一名、危険物取扱者乙種全類取得三年二十名(過去最高)、福祉住環境コーディネーター三級三年一名など、超難関と言われる資格検定に数多くの合格者をだしております、一名がジュニアマイスター・ゴールド、九名が同シルバーの表彰を受けております。

さらに、本年度全国大会出場を果たした運動系部活動は相撲、卓球、陸上(短距離)、フェンシング、ウエイトリフティング、バレーボール、自転車競技、水泳競技、チアリーディング、ゴルフ、スキー、ボウリングであります。また、文科系部活動では、将棋、吹奏楽そしてメカニカルアーツが全国大会に出ています。そのなかで特筆すべきは、メカニカルアーツ部の三名がロボカップジュニアの世界大会に日本代表として出場し、レスキューBの部門で優勝を果たしていることです。また、昨年度に引き続き附属中学校の卓球部は全国優勝を果たしておりますし、マスコミ等で大きく取り上げられたことに、二十一年ぶりに春高バレーに出場したバレー部のベスト4進出があげられます。

部活動のこうした成果は、生徒や指導者たちの日ごろの努力の賜物であることはいままでもありませんが、同窓会の皆様からは、全国大会出場に際して、その都度激励金をいただいております。全国レベルの大会で生徒たちが思う存分自分の力を発揮することができずとも、このような心強いご支援があつてのことです。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

「より良い会報づくりにご協力を」広報委員長・長尾楯夫



長尾楯夫
広報委員長

桜の花咲く季節になりました。同窓会の皆様のご健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。「同窓会だより」も平成22年3月に復刊第1号、今回第7号を発行することになりました。私、広報委員会委員長を仰せつかり、大変なことを引き受けたと思っています。先輩、後輩の皆様にご母校の近況をお知らせする手段は「同窓会だより」と「ホームページ」を見て頂くことです。皆様から幅広い情報を数多くいただいてより良い会報を発行していきたいと思っています。若い会員にもどしどしご参加いただいて、同窓会の更なる発展に繋がっていかれたらいいと思います。ぜひご協力よろしく願い申し上げます。

広報委員会の皆様方にはお忙しい中、月一度お集まりいただき感謝申し上げます。

情報提供は dousoukai@meiden.ed.jp へ

広報委員会メンバー ◻委員長 長尾楯夫◻副委員長 道木峰男、近藤春彦◻委員 今津孝、松本和彦、永井広明、東伸二、渡邊喜美子、柏太輔◻会長 葛谷捷臣◻アドバイザー 加藤訓◻事務局長 石川聡◻事務局 木村美樹◻会計 増田朗◻学園広報 寄川修